

子供たちが輝く未来へ ～心と体を動かそう～

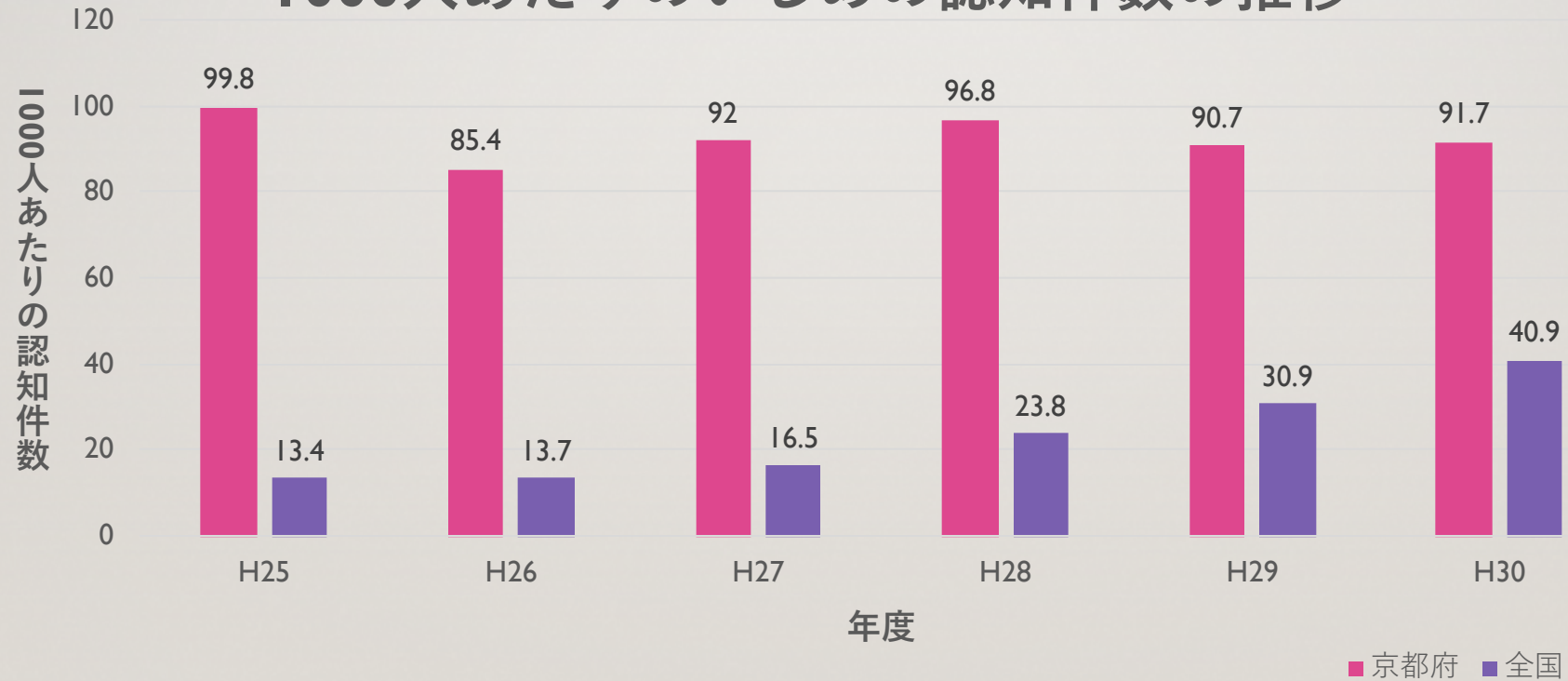
同志社大学 真山ゼミ Bチーム

目次

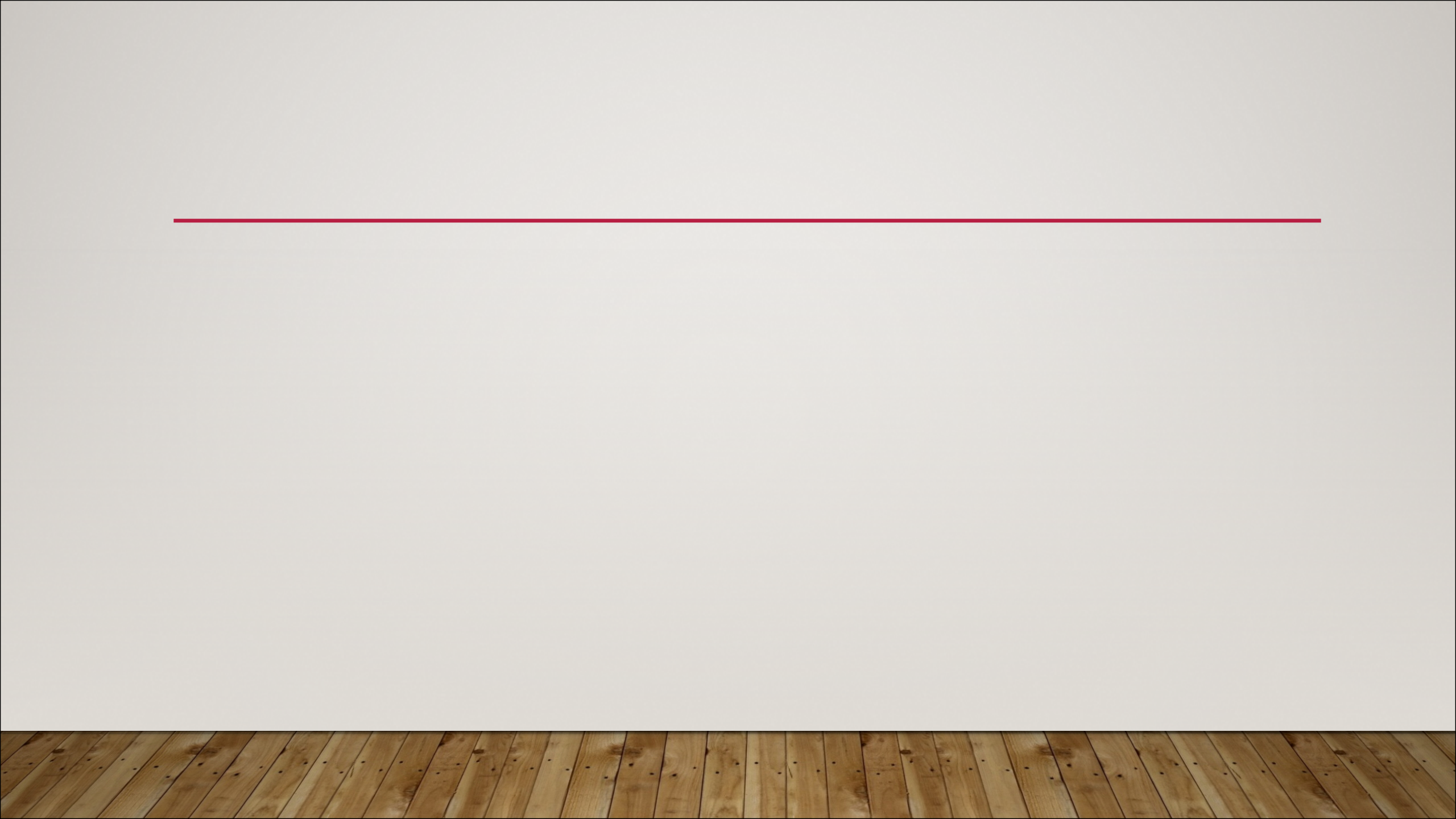
- 京都の現状
- いじめの発生原因
- 保護者のニーズ
- 課題
- 政策提言
- この課題は解決できるのか
- 遊びの具体例
- 運営方法について
- まとめ

京都の現状

1000人あたりのいじめの認知件数の推移



文部科学省：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」



いじめの発生原因

ストレス・愛情
不足

人間関係づくり
の未熟さ

いじめ

他者認識能力と
自己肯定感の弱
さ

映像文化

保護者のニーズ

- 子どもや親にとってあれば良いと思う支援は？

第3位 子どもが仲間と出会え、一緒に活動できる場所 (38.4%)

- 子育てにおいて日頃悩んでいることは何か？

第3位 友達づきあい (いじめなどを含む) (30.5%)

- どのような点を重視して教育しているか？

第1位 他人の立場に立って行動すること (51.3%)

第3位 友達などとの人間関係づくり (48.7%)



課題

協調性の育成や多様な人間関係の形成が可能な場を提供



いじめ減少

子供が輝く社会

政策提言

- 屋内の施設を利用し、子供が「遊び」を通してコミュニケーション能力の向上やいじめの減少につなげる

果たしてこの問題は解決できるのか

文部科学省の「いじめへの対応のヒント」によると...

児童生徒の問題は対人関係の不得手、表面的な友人関係、
欲求不満耐性の欠如、思いやりの欠如、成就感・満足感を得る機会の減少、
進学をめぐる競争意識、将来の目標の喪失などがあげられている。

→コミュニケーション能力の不足が問題の要因の一つ

遊び場の創生とともに、子供同士が自然に会話のできる環境を提供すれば、
この問題の解決ができると考えた。

運営方法について①

- ・ 大学生と子供が共同で企画、運営をする
 - ・ 大学生は同志社大学のプロジェクト科目として募集
→子供と親密に関わりたい学生を呼び込める
 - ・ 子供は市内の小学校にポスターを掲示し、募集
→毎月募集をかけることで、多様な子供が企画運営に携われる
- 子供が主体でありながら、市内の大学生も参加することでコミュニケーション力が増す。

運営方法について②

- 週に一回遊びの企画を練り、当日に向けた準備をする
月に一回遊びを実際に行う
→準備を含めた取り組みであるため、連続性がある。
- 場所は田辺中央体育館
→市内の施設を利用することで、経済的な負担が減る
→雨天でも遊ぶことができる

運営方法について③

- 遊びに参加することでポイントが貯まり、
企画内でそのポイントでお買い物ができる。
 - 企画から参加した子供には300ポイント
 - 当日の遊びに参加した子供には100ポイント
- 販売するもの
駄菓子や文房具、京田辺の名産の野菜
 - 自分で何かを買い、お金（価値）の大切さを学ぶことができる。
 - 身近な地元の野菜に触れる機会ができる。

「遊び」の具体例

チームワーク、コミュニケーションを重視した遊び

- ・ 猛獣狩りへ行こうよ
- ・ ジャンケン列車
- ・ 新マップをつくる

これらはどの遊びもチームを作り、会話をしないと完成しない遊びばかり！

新マップを作る

①自分の住む京田辺市についての理想をチームごとに話し合う

例) 駅の近くにはスーパーが欲しい

小学校と中学校は安全な場所に！

②理想のまちを大きな紙に書き込む

③チームごとに理想のまちを発表する

④参加者でチームごとの理想のまちを投票する



メリット

- ・スポーツや頭を使う遊びをして子供の成長を促す
 - 1.体を動かすことで、ストレスの発散に
 - 2.企画や発案をすることで積極性が身につく
 - 3.身体的な発育を促す
- ・ポイント制を用いる
 - 1.体と頭を動かすことに魅力を持たせる
 - 2.地域活性化に貢献
 - 3.お金の使い方について学ぶ